

学校関係者評価委員会報告書

学校法人瓶井学園日本メディカル福祉専門学校は、令和6年度学校自己点検・自己評価結果に基づいて、令和7年9月20日に学校関係者評価委員会を実施しましたので、以下のとおり報告いたします。

令和7年 9月30日

学校法人瓶井学園

日本メディカル福祉専門学校

学校長 瓶井 修

1. 学校関係者評価委員

氏名	所属
太田 昌憲	社会福祉法人 宝塚市社会福祉協議会
北野 暢隆	社会福祉法人若葉会保育園こどものくに 園長
蔵敷 重壽	元大阪市立都島工業高等学校 校長、 元大阪市教育委員会事務局 高等学校教育課長
檜村 友隆	兵庫県臨床工学技士会 理事

2. 学校側出席者

瓶井 修	日本メディカル福祉専門学校 学校長
堀川 茂野	日本メディカル福祉専門学校 副校長
中道 和則	日本メディカル福祉専門学校 教務課長
小保方 敬子	日本メディカル福祉専門学校 教務課長

3. 議事報告

項目	評価・意見
(1)教育理念・目標	「学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか」についてはホームページ上で公開されており、周知されていると考えている。
(2)学校運営	「教育活動等に関する情報公開が適切になされているか」については必要な情報については学校のホームページ上で公開している。
(3)教育活動	指定養成校である為カリキュラム変更については臨床工学科、こども福祉学科ともに厚生労働省の指定カリキュラムのため、補佐的な講義実習となる。 臨床工学科では、救急蘇生の実習を民間救急団体の協力を得て、全学年参加で実施した。患者さん対応について学ぶOSCE実習を2年生だけでなく、1年生にも実施し、卒業生を指導者役として、実際にクリニックにて行った。1年次、2年次2回行うことで技術の習得を狙った。 また、卒業生による特別講義の実施を行っている。 こども福祉学科では豊新かめっこ保育園への見学実習を人数の細分化により実現するなどの工夫を行うことが出来た 十分なレベルの教職員を確保できているが、外部研修に関しては、大阪

	府専各連の行う研修や、各学科の専門的な研修の案内を行い、実際にオンラインで参加してもらっている。職員による保育園イベントへの参加等を行った。
(4)学修成果	資格取得率の向上については、 臨床工学科では、成績が伸び悩んでいる学生に対し、国家試験前の学生個人対応をおこなうことで国家試験合格者を全国平均を下回ったこの取り組みは今後も続けていく。 4名の退学者がでており、体調不良による欠席が多く保護者と連携して連絡をとっていたが改善が見られなかった。 こども福祉学科においては、資格取得率については全員保育士資格取得させることができた。 通学課程（本科生）では退学者を出すことなく、丁寧に関わり、単位取得に繋げることが出来た。
(5)学生支援	学生の健康管理については 年に1回健康診断も行っている。 保護者と適切に連携しているか 令和6年度も保護者説明会を短時間で行った。保護者とは電話連絡などで連携の場を作っていく。
(6)教育環境	学内外の実習施設、インターンシップ十分な教育体制を整備しているか臨床工学科では新カリキュラムによる臨床実習を行った。実習の成果については報告会で発表してもらっている。臨床経験が十分な教員に、臨床実習前に学内実習を数を増やし、様々な取り組みを行っている。。 こども福祉学科では個別指導の機会を充実させているが、地域にある民間保育園の交流を行った。
(7)学生の受入れ募集	月に一回ペースのオープンキャンパスイベントの実施、オンラインでのオープンキャンパスの実施、SNSの発信、ガイダンスへの参加、高校訪問などを行っている。臨床工学科では高校以外にも日本語学校への訪問に力をいれた。留学生の応募が増えている。
(8)財務	特に問題なし。
(9)法令等の遵守	「自己評価の実施と問題点の改善を行っているか」については意見をいただき改善できた部分と改善できていない部分がある。改善できていない部分については今後改善できるよう努力していく。自己評価はホームページで公開している。
(10)社会貢献・地域貢献	特に問題なし。
(11)国際交流	「学習成果が国内外で評価される取組を行っているか」について、ほぼ適切との自己点検・自己評価結果は妥当であるとの意見が一致した。 学習成果が国内外に伝わるよう、ホームページを充実させ、情報発信を強化する。